

## 学校支援地域本部事業

### 自治体名

岩手県軽米町

### 学校数

小学校3校 中学校1校 高校1校

### 震災後の地域の状況・仮設住宅数

学校施設、社会教育施設の被害はあったが、人的被害や地域の重大な被害はなかった。しかし、災害に対する住民の意識は高まっており、住民が支え合う相互に支え合う地域づくりを目指している。

### ＜取組名＞

### ～小中高の学校図書館支援活動～

### 取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数 1名	ボランティア延べ人数 ＜学校＞54人 ＜町立図書館＞246人	年間実施日数(回数) 145回	活動場所 軽米小、小軽米小、晴山小、軽米中、軽米高校 町立図書館

### 活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
			○		○(学校図書館支援)
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					( )
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					( )
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					( )

### 学校図書館支援活動の内容

＜学校巡回での取組の内容＞ 学校巡回計 86回

- ◎図書館の環境整備 ◎オールカバー・修理 ◎図書館ディスプレイ ◎授業で使う本の選書
- ◎統合の書架移動準備(クリーニング・分類分け) ◎古い本の廃棄処理 ◎蔵書点検
- ◎閉校図書館の本の選別・廃棄

＜町立図書館での学校図書館支援活動の内容＞

- ◎学校巡回表作成【8回】(学校と日程を調整) ◎図書館ボランティアだよりの発行【7回】
- ◎各種研修会への参加によるスキルアップ【2回】 ◎学校巡回朗読会(樹原ゆりかるまい朗読会)の補助
- ◎軽米小学校読書指導部にカバー掛け指導
- ◎軽米町教育研究会で「授業と地域図書館との連携」について発表



取組の変遷

準備段階

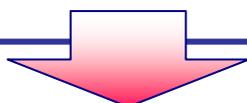
◇被災による課題

本町は震災津波による被災はなかったが、平成11年に豪雨による洪水で大きな被害を受けた。その際、日常生活における防災や地域における人と人のかかわり合いの大切さ、地域住民・家庭・学校・行政などの連携の必要性を再認識した。

◇住民等からの要望・必要な取組

学校の統合により、各学校区の範囲が広域になり、学校と地域をつなぐ活動が求められている。また、生涯にわたる学びという観点から、地域住民の知識や経験を活用できる取組も期待されている。

本町では「読書のつどい」の開催、読書ボランティア団体の活動、子ども司書講座の開設など図書館事業の充実に力を入れている。そこで、学校支援地域本部事業を活用し、町立図書館を拠点にしてコーディネーターや地域ボランティアが町内各校の学校図書館を回り、ネットワーク化と環境整備を進めながら読書活動の充実と地域人材の活用を進めていく。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・町立図書館に登録しているボランティア(38名)…学校図書館の配架や掲示物作成等の環境整備
- ・小学校、中学校、高等学校…PTAへの協力要請、必要な図書への依頼
- ・町立図書館…各学校のニーズ把握、巡回日程の調整、コーディネーター・ボランティアの派遣、
- ・教育委員会…コーディネーターの配置、各施設・協力機関との連絡・調整

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ボランティアだよりの年4回発行、軽米町教育研究会での発表等により活動を広く周知。
- ・町立図書館が学校巡回朗読会や子ども司書講座など学校や児童・保護者を対象とした事業を開催したり、読書や図書館に関する学校行事等に協力したりして、図書館と学校が連携できる体制を構築している。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

昨年度末の学校統合で、中学校が4校から1校に、小学校は4校から3校になった。統合に伴い、本のクリーニング作業や書架の移動などを行った。学校だけではかなり大変な作業となることが予想されたが、ボランティアの協力により、3月には中学校、6月には小学校の作業を終え、統合関係の作業はすべて終了した。

学校巡回も今年で4年目となり、先生方や児童・生徒に定着してきた。学校から新刊・寄贈図書の登録作業だけでなく、ディスプレイ、選書のアドバイス、読み聞かせなどさまざまな相談が寄せられるようになったが、ボランティアの協力によりそれらの要望に応えられるようになってきている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

H25 ボランティア人数…学校 157 人・町立図書館 325 人、年間活動日数…192 回

H26 ボランティア人数…学校 61 人・町立図書館 296 人、年間活動日数…195 回

25年度に学校統合の準備があったため、26年度の学校ボランティア人数が減少したものの、町立図書館と地域住民による学校支援体制が定着してきた。また、支援活動が地域住民の知識・経験を発揮する場になるとともに、住民同士や学校と地域の結びつきを強め、有事の際に協力して対応する体制づくりにつながるものとする。

◇課題や今後の展望

協力していただく地域のボランティアを増やし、学校や先生方からの相談・依頼に可能な限り応えられるようにするとともに、地域の力を活用しながら学校、図書館、地域の結びつきをさらに強めていきたい。